

令和6年度 第1回 大阪府立平野支援学校 学校運営協議会 議事録

大阪府立平野支援学校  
校長 川村 典子

日 時	令和6年6月19日(水) 10:00~12:00
場 所	大阪府立平野支援学校 小会議室
参加者	陸奥田 維彦(委員) 岩元 康(委員) 市場 達朗(委員) 欠席 谷藤 誠宏(委員) 中野 淳子(委員) 松本 理香(委員) 川村 典子(校長) 長谷川 真哉(教頭) 橋本 伸彦(教頭) 中川 忠彦(事務長) 井本 勇氣(首席) 橋本 万以子(首席) 玉井 実加(指導教諭) 阪本 祥子(小学部主事) 飯塚 恵子(中学部主事) 杉本 琢哉(高等部主事)
次第	(1) 令和6年度 委員紹介 (2) 授業見学 高等部 AB グループ「音楽」 (3) 学校経営の進捗状況 ①各学部の指導体制 ②令和6年度 学校経営計画 (4) 協議
意見等の概要	今年度の学校運営協議会の協議における年間テーマを 「児童生徒の目線に立った教育活動とは～学校教育目標、めざす児童生徒像の実現をめざして～」と設定した。 ●授業見学について ・「音楽と子どもたち、先生方の一体感がある。」「同じメロディの繰り返しで子どもたちが分かりやすい。」「子どもたちが楽しいと思える授業である。」と高評価を受けた。 ●各学部の指導体制について ・どの部署からも「チーム」「組織」というワードが多くあり、「協働性」の発揮に向かっている。ぜひ、続けてほしい、と要望された。 ・支援学校の障がい種別ごとに指導内容を固定するのではなく、「一人ひとりのニーズ」に応えられるような指導内容を作り上げていくことが、これからの学校に求めている、との意見があった。 ・近隣校だけでなく、他の障がい種別の支援学校との交流ができればいい、との意見があった。 ●学校経営計画について ・自身が過去に肢体不自由校に勤務していたころ、介護用リフトを使わなくなったが、平野支援学校では、子ども目線で安全安心を基本としているので、継続し使用されている、と高評価を受けた。 ・今年度は水・金曜日を定時一斉退庁日としていることについて、教職員が働き続けられるように、この取り組みはぜひ続けてもらいたい、と要望された。 ●年間テーマについて ・学年、学部が変わるときの連携及び引継ぎの時間をもっと持ってもらいたい、との要望があった。 ・学部ごとの体制や関わり方があると思うが、子どもは一人ひとり違うので、ひとくりにせず、一人ひとりの実態に応じた対応をしてほしい、と保護者の観点に立った意見があった。 ・学校教育目標が言葉だけではなくすべての子どもたちに向けたものになるように、教職員の気持ちを高めていくことが求められる、と期待を寄せられた。 ・【目線に立つ】という言葉は「目線を合わせる(子どもと同化)」や「寄り添う(感情や気持ちを理解する)」という意味ではなく、「子どもの立場や視点から考え、それに基づいて行動や判断をする」、ということ。つまりこれからは、校長のリーダーシップのもと、個々に動くのではなく学校組織として、子どもの実態に応じてサポートしたり指導したりしながら、子どもたちの成長へとつなげます、と宣言をしている力強さを感じる、と大きな期待を持たれた。各学部からの報告は、すべて子どもが主語になっており、すでに児童生徒の目線に立った教育活動が実践されている、と評価を受けた。 ・会議運営をはじめ働き方改革は重要であるが【働きがい】改革となるよう留意し、先生方が個人としても集団としても力をつけていくことがとても重要である、と助言を受けた。
備 考	・傍聴者 なし ・第2回開催予定 令和6年11月22日(金) 10:00~12:00 ・第3回開催予定 令和7年2月17日(月) 10:00~12:00

